

「戦争法」廃止に向けて黒石健太郎野党統一候補の勝利に向け支援する声明

戦後、我が国は、先の大戦にかかわる痛苦の反省を土台に、「不戦の誓い」を国是とし、「集団的自衛権の行使はできない」との政府見解の下で政治が行われてきたが、安倍内閣は昨年9月に国民の大反対が湧き上がる中、「戦争法」を強行成立させた。

以来、日米安保など様々な問題を抱えながらも、「憲法9条」を持つ国として国際社会の中で評価され、人権と民主主義の前進に加え、経済発展にも大いに貢献してきたことは揺るぎない事実である。

然るに、安倍内閣と自民党・公明党の政府与党は、歴代内閣の行ってきた憲法解釈を180度転換させ、「集団的自衛権の行使容認」の閣議決定と戦争法成立へと舵をきった。

安倍内閣の民主主義も立憲主義も投げ捨てた政治姿勢は、多くの良識ある国民を不安に陥れ、学生や市民、子育て中のママたちなど、幅広い市民参加型の反対運動として発展してきた。

「戦争法」強行成立後も、「廃止」を求める運動はとどまることなく、「野党は共闘して安倍内閣を倒せ」「戦争法を廃止せよ」の声が広がり、戦争法廃止の一点で野党共闘が実現、今回の参議院選挙では、全国32の1人区で歴史上はじめて野党統一候補が出そろった。

安倍内閣は、国会における数の力を背景に、「戦争法」の施行とともに憲法改正（改悪）に関する発言にも言及するなど強権的な政治姿勢に終始している。政権与党を少数に追い込み安倍内閣を退陣させるには、戦争法廃止をかかげる野党統一候補の1人区での勝利が不可欠である。ここに野党共闘の意味と私たちが闘う意義がある。

岡山では、安保健法の廃止と立憲主義の回復を求めるおかやまいっぼんの会（略称/おかやまいっぼん）・共産党・民進党・社民党が話し合いの末、民進党の黒石健太郎氏を野党統一候補とすることを決定した。

岡山県人権連も「戦争法」反対・廃止の運動を取り組んできた中、去る4月24日の第13回県連総会で「戦争法を廃止させる」ことを盛り込んだ2016年度運動方針と総会宣言を満場一致で採択した。

5月28日の2016年度第1回県連常任幹事会でも、安倍内閣の退陣と「戦争法」廃止を実現させるために、今回の参議院選挙では、黒石健太郎野党統一候補の勝利に向け大いに支援することを確認したところである。

この確認に基づいて、岡山でも人権連の総力をあげて戦争法廃止に向け参議院選挙を闘おう。

2016年6月7日

岡山県地域人権運動連絡協議会
議長 中島純男